

此
書

756

256
233

らるは清心草と縁りての向ふ
 九羽の下の向は名譽の行ひも心
 あは此時のうぐくたぬも有や日乃
 本づの國豊ある秋津所の浪も
 ねとあふつ乃海に唐土もあり
 あは世調の道の家安ふ安事寺も
 為はまきとく陳登梅の花は春を

まてぬて身は楢の目シタト松
 乃成すも時あそくか入り海も緑
 の那トシチカレ風を舞ひてひらめひらく
 年のまもりの松のうよまきを隠入
 て忽ニヒトちりぬ家乃葉木をツク祈
 のめぐトあびくト春めみの渡る感
 られト歩トをさト宮寺のまろ長

閑まきる目より上あり松がねの岩まきと
つよ音むらぐら敷海は音は
突来ありや此山よりあふまきる雪の
つらえをみ物惜まる花威手折わ
まき身梅の花垣のまかかん梅は
花垣まきるいつに具ある老人
まきるまきる まきる

ゆりけりまきる早 岡みびたるまき
梅と花垣のまきるまきる
愚や神木の唯紅梅殿と社あがまきる
つら紅梅のまきるまきる
は詠まきるまきる
あがまきるまきる
ねまきるまきる

あつて分る 早 早 早
まのり 早 早 早
本とみえ 早 早 早
わろくも 早 早 早
花やうの 早 早 早
歩の者 早 早 早

乃翁 早 早 早
説 早 早 早
物 早 早 早
先社壇 早 早 早
左の青山 早 早 早
映上 早 早 早
作筆 早 早 早

光孝の始皇の治時天御は
皇り大兩志よりなり
と志のうむしお松の陰より
松樹は木本とあり枝をたき
あふぬの國をたかき
西の山をたかき
龍を舞う松より大ちか

あふぬの國をたかき
西の山をたかき
龍を舞う松より大ちか
あふぬの國をたかき
西の山をたかき
龍を舞う松より大ちか
あふぬの國をたかき
西の山をたかき
龍を舞う松より大ちか

しつゝも書へらる神の昔を
もあつてくしく出端如行は紅梅殿
に其のまね人さぶ伊とう慰め給ふ
ぢま地 実あづらあはもたぢ
梅も色う地 松もくも 外社
老木の若みどり 地 かなもかん
神地 くら 地 号地 くら 地 舞をま

引くは後ら宮葉のきも又ちたる
が地 かのや 地 枝乃 地 楳のわ
木の花の神 地 是の老木の神 松
乃 地 是の老木の神 松乃ちよみ入
多 地 是の老木の神 松乃ちよみ入
昔のむま 地 昔のむま
松行つる 地 松行つる

256
233

複製不年



發行兼
印刷者

京都市上京區三條通麩屋町東九角

檜 常 之

(特電話二番)
(振替貯金大阪三)



訂正者 觀世清



明治廿二年六月廿五日從
同 世四年一月廿八日迄 出版御届濟
同 四十三年四月廿五日從
同 四十四年十月廿五日迄 再版
同 四十四年二月十五日 別製本御届

此書之書名も亦清兼も此と神
誌乃つて世を志すは清兼も梅平
美しき書なりと云ふたきれ

